



すがい きよし
菅井 清 (55歳)

宮城県美里町徴収対策課
課長兼納付推進センター室長

《主な職歴》

昭和59年4月 旧小牛田町入庁
平成18年1月 合併により税務課管理徴収係長
平成21年4月 宮城県地方税滞納整理機構派遣
平成24年4月 徴収対策課課長補佐翌年課長へ昇格
平成26年1月 美里町納付推進センター室長(現在に至る)

いまだ道半ば、
債権管理の継続を

ある日の朝、登庁した町長が税務課の喧噪を聞き、課長を呼び出すこともあった。騒ぎ立てる滞納者との格闘が続いた。

「税金の滞り、徴収対策課の職員自ら作り上げていたのです。それから一年間、窓口で呑みにする弱腰の対応が、滞納者の言い訳を聞きかざるを得ない状況を職員自ら作り上げていたのです。それから一年間、窓口で騒ぎ立てる滞納者との格闘が続いた。

ある日の朝、登庁した町長が税務課の喧噪を聞き、課長を呼び出すこともあった。

1 合併により税務課へ

美里町は平成18年1月に2町合併で誕生、私は産業振興課から税務課へ配属された。税務課に着任して驚いたのは、窓口の様子でした。「延滞金は負けると言われていた」「月5千円しか払えない」などといった滞納者の反応。また、督促状が来たとの苦情の電話に、税務課の職員が電話口でお詫びしている有様でした。

今回は宮城県美里町の取り組みを納付推進センター室長の菅井さんにご登場いただきました。

菅井さんは平成18年1月に小牛田町と南郷町が合併し美里町が誕生した時から徴収部門一筋で頑張ってきた方です。



年度末を迎えるころには「今日も菅井は吠えていた」と笑って理解してくれた。私がとった対応は荒療治であり、今の環境下ではとてもできない。今思えば背筋が凍る思いである。残念ながら累積する町税・国保の滞納は、平成18年度末4億5千万円、現滞併せると6億5千万円に達し、その縮減対策が必要だった。

●収入率の推移

		単位(%)				
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
町 税	現年	96,87	96,34	97,30	97,85	98,43
	滞繰	24,31	26,80	30,22	31,37	35,46
	計	88,65	88,88	90,09	91,73	93,73
国 保	現年	86,18	87,22	90,78	91,95	93,40
	滞繰	21,70	23,25	22,67	27,52	27,24
	計	64,62	65,16	65,89	71,27	76,06
町税+国保	現年	94,30	94,19	95,87	96,51	97,27
	滞繰	22,87	24,76	25,89	29,15	30,76
	計	81,52	81,88	83,23	85,98	88,87

●延滞金収納額の推移

		単位(円)				
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
町 税	9,078,936	10,402,066	11,222,580	13,505,993	16,483,615	
国 保	6,108,237	6,416,476	7,693,285	11,635,449	16,401,490	
合 計	15,187,173	16,818,542	18,915,865	25,141,442	32,885,105	

●滞納処分の推移

		単位(件)			
		差押	参加差押	搜索	執行停止処分
23年度	188	3	8	35	
24年度	205	6	6	51	
25年度	150	11	6	111	

●処分金額

		単位(円)		
		取立・公売	インターネット公売	執行停止
23年度	7,763,327	106,440	26,357,210	
24年度	10,405,006	240,049	30,779,017	
25年度	14,803,406	97,117	25,253,979	

2 郵便局収納・コンビニ収納の導入

「銀行しまって納められない」と滞納者から言い訳に使われる悔しさから、コンビニ収納導入を決意、また、僻地の金融機関の閉鎖が進められた状況の為、(公)郵便局窓口収納を進めた。四苦八苦しましたが平成19年度に間に合いました。導入の表向き理由は町民の利便性向上だが、徴収対策としては、滞納者の言い訳を封じるためなことでした。これにより、口約束だけで納付しない滞納者の滞納処分が進んだ。

3 徴収対策課の新設・機構への派遣

合併から一年経過し、庁内では行革の横断的なグループ討議が開催されており、その討議の場に町の全債権の未収金の実態を公表、債権管理の必要性と徴収の一元化を訴えた。

そして二年後の平成21年度に当該が新設された。税滞納額が大きくその縮減がメインとなり、税外債権も引き受けることでスタートした。

私は同時期に創設された宮城県地方税滞納整理機構に3年間在籍した。機構の中から当該の支援を行い、搜索、公売、インターネット公売、執行停止処分を進めることができた。

国保制度を崩壊させないために!!



コールセンター風景

機構では「滞納処分は是々非々で、絶対ひかない対応」で事案にあたった。機構で培ったこの合言葉を、徴収対策課の課員一同で共有している。これにより平成23年度末で4億5千万円あった国保の繰越額は、この2年間で2億円減少し、それ以前に比べ大幅な圧縮が図られた。

4 コールセンターの導入

他方、今年度5月末における現年度の繰越額は年々減少傾向にあるとはいえ、約1億円と横ばいで推移しており、その縮減が必須の状況でした。当町が県北部に位置する制約の中、委託による納付の呼びかけを行う「納付推進センター」を平成26年1月から導入した。この時期は確定申告と重なり、催告を含めた対応が手薄となること

常態となっており、何らかの新たな対応をしない限り平成25年度も同様であると想定されたためである。さらに、電話しても完納されない未納事案への対処のため、専任職員として国税OB2人をこの4月から任用した。納付推進センターはこの両輪によって効果が生ずると考えている。

5 対策本部の設置

当町では、平成24年11月、町債権全体の未納額圧縮に向けて関係各課で構成する債権収納向上対策本部を設置した。当該が事務局を担当している。そして町債権を、税、強制徴収公債権、非強制徴収公債権、私債権の四つに分類し、地方自治法や個別法毎に定義。平成25年度から3カ年の「収納向上実施計画」を策定し、「美里町債権管理マニュアル」を改定した。これらにより、所管課の収納率を向上させ、債権管理を一層強化することが可能となった。

さらに、所管課支援を行うほか、全職員を対象とした債権管理研修、専門研修、担当職員の派遣研修も継続的に行っている。複数の債務を有する者に



現在当町の滞納の5割を国民健康保険税が占めている。県内の状況も同様である。東日本大震災後、国では被災者救済措置で国保減免等を行ったが、その対象に滞納者が含まれており、その年度の現年度徴収率はわずかながら上昇した。

6 終わりに

また、国保の資格審査の在り方について意見し、累積滞納者は一旦資格に移行させ、条件が整った状況で短期や一般へ戻すルールとした。

対して効果的に対応するため、債権の一括管理を図っている。その手助けとなる滞納管理システムの導入は、近く基幹システムが入れ替えとなる時期を想定、他方、債権管理条例の制定に向けた検討にも着手しており、債権放棄中心ではなく、裁判など運用面を考慮した専決規定など債権管理に主眼を置いたものと考えている。

早くするしかない。その事案解決の判断の一助として滞納者の生活状況や借金などの情報がかめる「搜索」を活用することが私は望ましいと考える。決して国保の資格証明書をちらつかせ、小額分納を認めてはいけな

堀 博晴 ほりひろはる

NPO LG Net理事長
厚生労働省国民健康保険料(税)収納率向上アドバイザー
昭和42年江戸川区役所に入部。東京都総務局小笠原支庁、同和对策部、災害対策部、主税局足立都税事務所整理第二課長、新宿都税事務所整理第二課長、練馬都税事務所納税課長、課税部軽油特別調査室副参事、徴収部機動整理課長、徴収指導室長を歴任。機動整理課長の時、全国で初めてのインターネット公売を実施し成果を上げる。「ネット公売を全国に広げたい」と、自らヤフーのスタッフ募集に応募し、官公庁担当に。インターネット公売の説明に全国の自治体を飛び回る。平成23年より、NPO LG Netを設立し、理事長に就任。平成25年3月より八丈町税務課徴収係長として現場でも活躍中。著書には、『インターネット公売のすべて(ぎょうせい)』、『自治体増収大作戦-インターネットが変えた-』(ぎょうせい)がある。



最近滞納者の話を鶏呑みにする(もしくは言いにならない)ような自治体は少なくなっていると思いますが、美里町も18年以前はそうだったようです。収納環境を広げたり、コールセンターを導入したりとその苦勞は大変だったと思います。美里町の徴収率が上向きになったのは、菅井さんが地方税滞納整理機構に派遣され機構の中から搜索、公売等を進めたことでした。しかし徴収率を見ますと決して良いとは言えません。更なる高みを目指すために菅井さんも言っていますが、町独自で「搜索」を活用していくことではないかと思えます。

皆さんの自治体でも「取るか落とすか」の判断を早くして「搜索」を行う時間をせむ作ってみてください。